

## 事業報告書 (平成30年度)

事業名 “頑強な人生” 創造プロジェクト～地域と世界でたくましく生きる若者を目指して～

団体名 特定非営利活動法人 国際協力研究所・岡山 (NPO ICOI) 担当者名 竹島 潤

※活動の様子がわかる写真 (データもお願いします) と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

本プロジェクトは Global Youth Project (国際青少年)、Peace Project (平和)、Social Issue Project (社会課題) の各事業を通して、岡山市内中学生をはじめ青少年たちが多様な方々や機関との出会いや体験により、よりたくましく (頑強に) 人生を自ら創造していこうとする視野・能力・態度を育むことを目指すものであった。以下に各プロジェクトの概要を記す。

#### 【1】 Global Youth Project(1) 6月13日 (水) ～18日 (月)

米国サンノゼ・シリコンバレー高校生親善大使交流受け入れ事業として、姉妹都市サンノゼから7名の高校生を招聘し、岡山市内各地および中・高・大学で生徒・学生交流をおこなった (岡山学芸館高英語科高校生25名、岡山市立旭東中第1学年および有志生徒など約350名、岡山大 Global Discovery Program 学生約20名)。文化交流、レクリエーション、ディスカッション・ホームステイ (岡山市内の中学生を擁する7家庭) を通した岡山プログラムにより相互の国際感覚やESD視点の生き方への意欲を高められた。



(写真左から) 旭東中・学芸館高・岡山大での交流、ホストファミリー歓迎会

#### 【2】 Global Youth Project(2) ①9月5日 (水) ②12月22日 (土)

- ① “How to Be Global” プロジェクトとして、岡山外語学院学生25名と岡大附中生第2学年の国際交流チーム生徒25名がおもに日本語を用いた文化交流をおこなった。
- ② International Meeting 2018 として、岡大附中1～3年生18名と岡山大の日本人学生・留学生 (トルコ、エジプト、ケニアほか12カ国出身) 14名が、日本の昔お遊び、「えんたくん」を用いたテーマ別ディスカッションなどをおこない、キャリア意識、コミュニケーション能力、国際感覚を育んだ。



(写真) 交流プログラムの様子

#### 【3】 Peace Project(1) 9月28日 (金)

アスエコにて8月9日～16日カンボジア現地活動の報告会を含むESD講演会を開催し、学生を含む市民約30名と平和・人権に関する研修をおこなった。同日の日中には、カンボジアの地雷除去活動家アキ・ラー氏と活動されているスタッフと同日本人応援団・川広肇氏ら関係者を招聘し、岡山市立石井中 (約400名)・操南中 (全校約750名) での講演会と生徒交流をおこない、平和・人権について学ぶ場づくりとできた。



(写真左から)

- ・学校での講演会および交流
- ・ESD講演会

**【4】Peace Project(2) 12月8日(土) 2月23日(土) ほか**

国際、平和、社会問題などをテーマに学んだ中学生または中学校教員が、地元公民館などで活動報告をおこない、地域や一般市民の方々に学習内容を伝える機会をもうけた。これにより、テーマ自体を多くの方々が知る機会になるとともに、地域・学校・NPOがつながり、共に持続可能で平和な地域を作り上げていこう、という気運が高まった。東山、岡西、操南、操山・旭東の各公民館と更生保護法人古松園でおこなった。



(写真左)

発表や質疑応答する中学生たち

**【5】Social Issue Project(1) 10月6日(土)**



岡山市勤労福祉センターにて、ドキュメンタリー映像作家の松原保氏を招聘して「被ばく牛と生きる」「天空のトラ」の2作品に関するご講演をいただくとともに、今後の学校での講演会や生徒交流、中学生が社会課題に向き合う機会の提供について意見交換した。約20名が参加した。

(写真左から) 松原監督による講演会と集合写真

**【6】Social Issue Project(2) ①12月19日(水) 20日(木) ②1月18日(金) 19(土)**

東日本大震災に関する学年授業や震災後8年を迎えようとする東日本(福島)の現状について学び、意見交換することで、持続可能な社会づくりのために「考え・行動する」ことの大切さを学んだ。①「希望の牧場・ふくしま」吉沢正巳代表(福島県浪江町より)、②同牧場をテーマに芸術家活動をされている画家・山内若菜氏(神奈川県より)をお招きして、講演会や芸術作品鑑賞授業をおこなった。また、NPO-学校連携プログラムの概要や生徒感想などを共有するESD講演会も開催した。①12月19日(水)操南中・アスエコ、20日(木)岡大附中、②1月18日(金)岡大附中・19(土)国際交流センターでそれぞれ実施した。



(写真左から) 吉沢さん講演会・意見交換する生徒・山内さん講演会・作品鑑賞

**2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ**

人権、平和、環境などのグローバルな課題を解決しようとする時には、多様な人々とコミュニケーションをとりながら、批判的多面的に考えて行動することが肝要である。そこで、こうしたESDで育みたい能力・態度が高まるよう、多様な人との出会い、コミュニケーション、アクションを含む事前・事後学習やプログラム本体を設定した。また、それぞれの課題は相互につながっていることに気づかせ、総合的なものの見方(システム思考)を身につけさせることも意図できた。

教育効果をあげるために、学校教育でおこなわれる総合的な学習の時間(国際・人権・平和など)と内容面での関連性をもたせるとともに、当該地域とのつながりをいかした発表会や世代間交流の場を設け、青少年にも地域の大人にも波及効果をもたらすことができた。また、各

教科で学んできたことの積み重ねとなる発展的な学習活動、生徒主体となる実行委員会や有志の発掘をいかした実施により、主体的な行動力を育むことができるようにした。

これまでは単独の学校とNPOが連携協働する実践だったが、本プロジェクトでは、「岡山市における持続可能な社会づくりの主体を育成する」との目的を明確にし、市内の複数の中学校などで取り組むことができた。本プロジェクトは複数の学校および地域に焦点をあてたESD推進事業を提案するものになったと考えている。

### 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

各中学校や中学生とともに取り組むことにより、広範な青少年育成プロジェクトになる効果的な連携協働への意欲を関係者の間で高めることができた。今後の各地域での学社連携を促進できたように思う。参加者へのふりかえりアンケートの実施や体験の言語化による共有（プレゼンテーション）を通して、生徒たちに自己肯定感、自己有用感や社会課題への関心が高まっている様子が見られた。

また、いずれのプログラムでも「1度きりの人生、1回きりのいのち」（有限性）だからこそ、よりよい生き方を自ら獲得しようする“頑強な人生創造”に取り組んでいこう、というメッセージを発信することができた。

### 4. 今後の課題と展望

本プロジェクトにより経験と学びを深めた生徒・学生たち、そして学校と地域がより活発に持続可能な社会づくりのさまざまなチャレンジを続けていくことを期待している。今後も継続的に、本プログラムを土台としたより質の高い連携事業をおこない、そのプロセスに関わっていきたいと考えている。また、このようなESD視点を大切にした社会とつながった学習や経験をした、異なる学校やフィールドの生徒や学生たちが集い、より持続可能な社会づくりについて意見交換をおこなう場や、実践を共有できる場を創っていきたいと考えている。